

Q 地域との関係づくりについて教えてください。

A 教職員と地域住民とのトラブルがない状況を「良好な関係」ととらえてはいないでしょうか。「関係」は、つながりのある状態を意味するのに対し、「連携」は、つながりによる目的指向的な一連の「作用」を意味します。教育学者の佐藤晴雄（日本大学教授）は、学校と家庭・地域との「連携」を「学校と家庭・地域社会とが学校教育の改善と地域の生涯学習推進を目的として、それぞれが所与の役割分担を前提にした上で、『情報交換、連絡調整』、『相互補完』、『協働』などの諸機能を発揮する恒常的な協力関係の過程である」と定義しています。

学校と地域の「協働」は、目標を共有し、その達成を図るために対等な関係で役割分担をしながら相互に物的・人的・社会的システムを活用していく活動のことであると言えます。家庭・地域から学校への、また、学校から家庭・地域への一方的な支援ではありません。真の「連携」は、学校・家庭・地域がともに目的を達成できるよう協働し、その結果を共有できる互惠性のあるものと言えるでしょう。

学校と地域を結びつけるものを考えてみると、一つには、地域の教材化が挙げられます。これには、「地域への関心が高まる」ことなど多くのメリットがあります。地域教材を「教科書教材と置き換える」、「身近なものをつなぐ」、「子どもが内容を選択する」などをカリキュラムの中に方法として位置付けることができます。また、地域教材を活用する中で、教職員と地域の人々との関わりができ、そこに双方の充実感も期待できます。二つ目に、「地域の人材活用」が挙げられます。それぞれの地域には、多種多様な人々が在住されています。校長として、ネットワークを生かして、どのような方が住まわれているかを知ることから始めます。そして、自校の教育課程と併せて、ゲストティチャーとしてお招きしたり、学習環境整備や学習支援に協力を依頼したりすることで、学校に地域の方々が入れる機会を創ることです。三つ目には、「学校通信」の充実が挙げられます。学校の情報発信、保護者へのお知らせや協力依頼、学校・保護者のネットワークづくり等に加えて、学校のビジョンを地域に広く示すことができます。学校からの発信をきっかけに、学校と地域の双方向のコミュニケーションの礎石となり連携が深まっていきます。四つ目には、児童の安全確保と危機管理に学校と地域が連携して取り組むことです。そのためには、地域と家庭を結ぶ確かなネットワークシステムの構築が欠かせません。このネットワークを機能させ、支えるものが学校・地域の良好な人間関係づくりなのです。

学校と地域との連携の必要性はこれまで以上に高まっています。地域連携を行事的取組にとどめず「仕組み」を整備して継続できるようにすることが肝要であろうと思います。

校種

小学校・中学校